

6. 放射線デジタル技術普及事業

株式会社ティーエーネットワーク

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

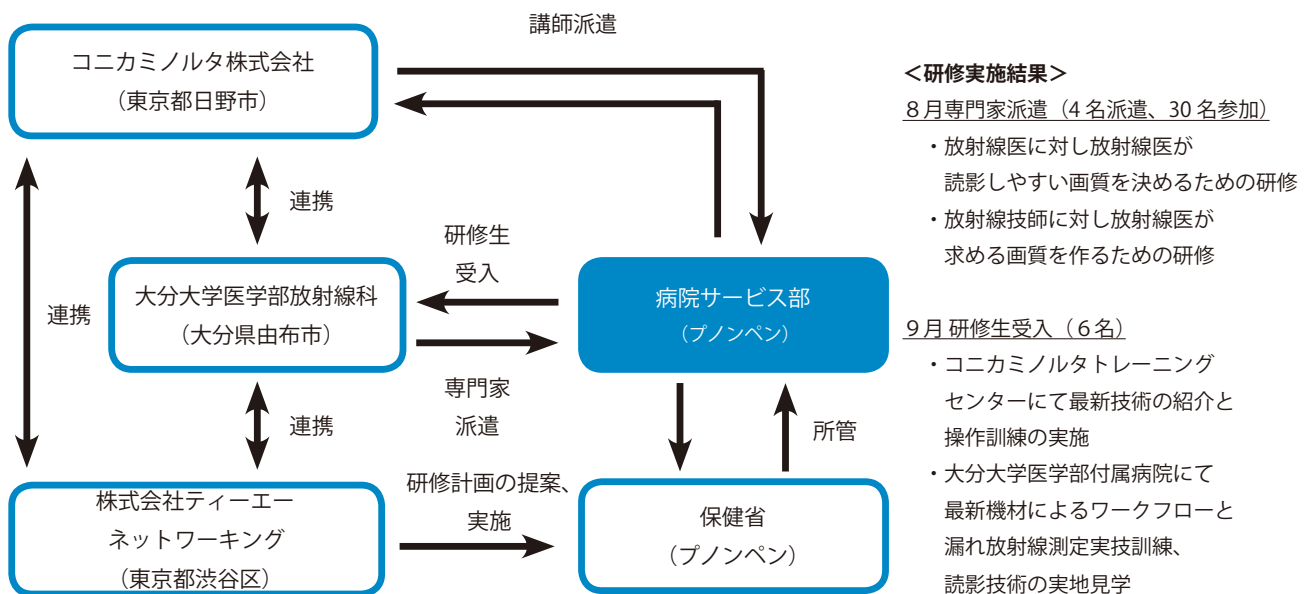
高温多湿のカンボジアでは液体现像による品質の不安定なアナログフィルムから、より安定した診断画像が得られるデジタル化が有効であり普及が求められている。

【活動内容】

最新医療診断を実現している大分大学医学部放射線科と日本のデジタル放射線市場の約4割を持つコニカミノルタ株式会社が専門家を派遣し、国立病院と州病院の放射線医、放射線技師に対しデジタル化の研修を行い、本邦研修として各3名の医師・技師を招聘し、大分大学とコニカミノルタで研修を実施した。

【期待される成果や波及効果等】

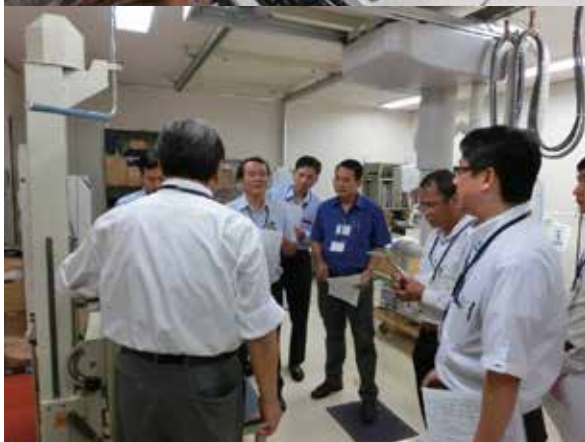
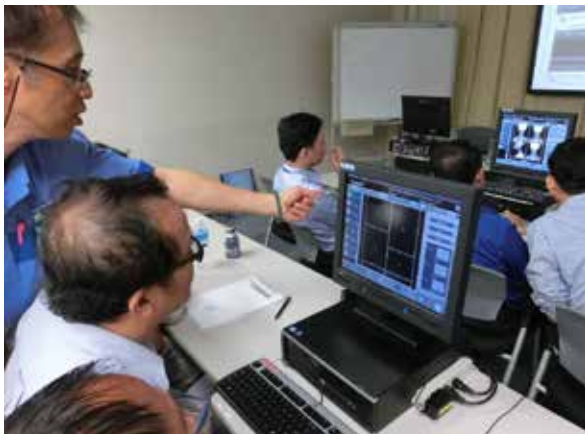
本事業で15名の放射線医と15名の放射線技師の放射線のデジタル化研修を実施し、基本的なデジタル技術を取得できた。今後デジタル化放射線機材の導入の促進が予想される。より面的な広がりのため継続研修のニーズがある。



カンボジアでの研修



日本での研修



・事業の成果

- 放射線医15名、放射線技師15名への放射線デジタル化の現地研修の実施され、基本的なデジタル技術を取得できた。放射線デジタル化の有用性が理解され、今後のデジタル放射線機材の普及への基礎ができた
- 主要な放射線医がデジタル放射線画像としての特性を理解し、診断しやすい画像タイプを理解し、診断レベルの向上が期待できる
- 主要な放射線技師がデジタル放射線撮影技術と画像処理技術を取得し、放射線医が求めた診断画像により近い画像タイプを実現する技術を得た
- 選抜された放射線医3名、放射線技師3名へのレベルアップした本邦研修の実施し、放射線量管理の方法、デジタル化の方向性を理解した

・今後の課題

- 放射線医15名、放射線技師15名への研修のみであったので、カンボジア全体で、それぞれ200名以上いるので、面的な広がりが必要で、継続的な研修の実施が必要
- 一部デジタル放射線機材の導入が始まっているが、全体的に見れば、導入の検討が始まった状況であるが、導入が推進されるような取り組みが必要
- 放射線技師育成機関であるTSMC(国立医療技術学校)への、講師の教育、機材と講義内容のデジタル化への対応が必要
- ガイドラインだけで実施されていない放射線量管理の実施へのサポートが必要